

平成29年3月2日

浜田市議会議長 西田清久 様

議員名 西田清久



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため、視察を実施したので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成29年2月6日(月) 午前7時から
平成29年2月8日(水) 午後5時まで

2. 視察内容
 - ① 佐賀城公園の整備と歴史館の状況(佐賀市)
 - ② 唐津漁港高度衛生管理型市場の整備と課題(唐津市)
 - ③ 福岡城址の整備状況(福岡市)

2. 視察先 佐賀県庁・佐賀城公園・佐賀城本丸歴史館
唐津市舞鶴公園・唐津漁港市場・福岡市大濠公園

3. 調査経費 一人当たり 22,386 円
(経費内訳 レンタカー代金・ガソリン代・高速料金・宿泊費)

4. 調査研究活動の概要

別紙



佐賀城公園の整備と歴史館の状況（佐賀市）

佐賀県庁 会議室 佐賀県佐賀土木事務所田崎茂樹所長
佐賀県佐賀土木事務所街路公園課野口欣也課長
佐賀県立佐賀城本丸歴史館企画学芸課藤井祐介学芸員

佐賀市は佐賀平野の中央に位置し、人口約 23 万 6 千人の県庁所在地である。歴史的にも佐賀藩 36 万石の城下町である。東西南北の広域にお濠が残っており、そのお濠を中心に都市計画（33.2ha）と開園区域（28.8ha）を決定している。公園内に、県立図書館、県立博物館、県立美術館、市村記念体育館、佐賀城本丸歴史館、佐賀城鯨の門などを配置している。

佐賀城は、1602年鍋島直茂・勝茂によって築城され、天守台は現存していないが4重構造の平城とされている。

平成19年3月に「佐賀城下再生百年構想」を策定してその構想の基に佐賀県、佐賀市、佐賀県民が協働のまちづくりを推進している。その構想には、コンセプトと目標をしっかりと定め、それぞれの方針に沿って取組を進めている。

ハード面では、公園整備で二の丸広場、レトロ館、東濠復元等の工事、ソフト面では、地域で祭りやイベント等を開催している。

さがレトロ館は、民間によるカフェレストランで、明治20年に警察部庁舎として県庁横に建築されたものを移設、修繕し民間活用している。

鍋島直正公の銅像再建（8m）は、募金によって、平成29年3月4日除幕式が行なわれる予定である。

東濠復元工事は、赤石護岸の復元、舟揚げ場の復元などである。

本丸歴史館は、十代藩主鍋島直正が1838年に再建した本丸御殿を忠実に復元した日本最大級の木造建築物。佐賀県直営で入館料は無料であるが、維持管理運営費として年間約5000万円を投入している。

唐津漁港高度衛生管理型市場の整備と課題

唐津港まき網市場 会議室 佐賀県産業労働部流通通商課中西昭成係長
株式会社唐津魚市場常務取締役木下泉氏

浜田市産業経済部漁港活性化室石田室長・戸津川係長・田中主事
浜田市都市建設部建築住宅課佐古係長・平野技師の5人との合同視察

「唐津港まき網市場」は、高度衛生管理型に改修することにより、唐津港の水揚量シェアと安全・安心の評価を向上させ、玄海地区水産物のブランド化を図るために、事業費約18.1億円をかけて平成26年度～平成28年度の期間に改修整備された。事業主体は佐賀県である。

「唐津港まき網市場」改修整備の状況は、鳥糞による汚染防止のためにネットを使用した開放型で、床の清潔を保つための床面の傾斜化とコーティング、競り場内への車両進入防止構造とし、衛生確保のための濾過殺菌海水供給施設の設置、施設洗浄のための十分な海水供給量の確保なども機能として確保されている。

また、3カ年に亘る工事のため、営業しながらA・B・Cの3区画に分けて改修を行なっている。

(株)唐津魚市場の年間使用量(家賃)は1500万円、管理委託料年間400万円、水揚げ手数料4.5%、箱代120円である。平成28年の水揚量は、23655tで、水揚金額は約34億5千万円である。

設計は、東京の(株)OCT(オクト)で、平成24年に基本設計、平成25年に実施設計をおこなっている。

自動選別機は3台所有しているが、1台につき30人の人員を要するため、実際には2台しか稼動していない。

照明はすべてLEDを使用している。

所感

佐賀城公園の整備と歴史館の状況

佐賀城公園の整備については、昭和36年に佐賀市から佐賀県に公園が移管され、昭和58年に県が佐賀県歴史資料館の建設意向を表明、そして県と市が連携して周辺地区整備構想を策定し、平成16年8月に佐賀城本丸歴史館が開館した。

このように県が歴史資料館の建設意向を表明してから様々な構想計画を含めた段階を経て、約20年後に本丸歴史館が完成している。浜田市の歴史資料館との比較は適当ではないが、市が単独で真水に近い予算を投じて、しかも短期間に建設に踏み切るとは将来的に不安を残すような気がする。

また、佐賀城公園においては、建設までの過程で市民の意識の高さと積み上げがあったように感じた。その一つは、元々城内のお濠や水路、河川をホテルが飛び交っていた水環境に取り戻すため、城内自治会でホテルの養殖や水辺環境の維持などに取り組んでいる。二つ目に、お濠のハスの再生に地域で再生プロジェクトの取組を行なっている。

三つ目に、鍋島直正公の生誕200年(平成26年)に併せ銅像再建の募金活動を始め、1億円以上が集まり、3月4日に完成する運びである。

歴史を正しく知り、その資料や文化財を保存、伝承していくことは大変重要なことではあるが、市が単独で大きなプロジェクトとして永年運営していくには、非常に厳しいものを感じた。

唐津漁港高度衛生管理型市場の整備と課題

「唐津港まき網市場」の高度衛生管理型市場への改修整備については、元々あった市場が昭和51年建築で40年経過はしているものの耐震は大丈夫であったため、元々の構造体を活用して部分改修された。総事業費18億円余は、浜田市が計画している総事業費55億円に比べ低コストに感じたが、総面積の違いや外壁の有無、空調(冷房)等々、いろいろな要因があることが理解できた。

今回は、浜田市の関係職員と一緒に視察研修が出来、市としての意識の共有が図られたことが一番大きな効果だったと感じた

福岡城址の整備状況

福岡城址は元々天守閣の無い？城跡であるが、大濠公園や市街地が見渡せ、ゆったりと石垣に囲まれ梅林を中心に手入れをされた樹木が点在している。城跡内は、市民や観光客が入場しやすく憩えるような程度の整備がされていた。丁度梅林の梅が開花し始めて、2~3組のカメラマンがシャッターを構えていた。福岡には様々に多くの方が訪れているので、城址を必要以上に予算をかけて整備するというよりも一定の整備に止めているように感じた。



佐賀城本丸歴史館の学芸員さんから
全体模型を見ながら説明を受ける様子



唐津魚市場前での
参加メンバーの集合写真



佐賀県議会議事堂1階での
参加メンバーの集合写真